

COLUMN: 先生紹介 ▶ 松尾 和哉



素直になる勇気を持つこと。

はじめまして。松尾和哉と申します。以前、非常勤講師としてお世話になっていましたが、この度社員としてお世話になることになりました。自己紹介も兼ねて私の今までの経歴から学んだことについてお伝えします。

私は開智に来る前は芸能界を目指していました。大学在学中に声優の専門学校へ通ったり、芸能事務所所で演技の勉強をしたり、ライブハウスでライブをしたり、ポイトレに通ったり、色々な活動をしてきました。しかし、活動するようになるまでにとっても時間が掛かりました。小学校高学年くらいから芸能界(この時は歌手)に興味があったのですが、それを中々両親に伝えることができませんでした。自分

の考えや想いを伝えることが恥ずかしかったのです。両親に自分の気持ちを伝ええないまま高校三年生になり、大学受験に失敗して浪人することになりました。もちろん最初は志望校に合格するために頑張っていました。ある時ふと「なぜ大学に行きたいのか」と思うようになりました。本当に自分がやりたいことは何かを考えた時に芸能界(この時は声優)のことが頭をよぎりました。このままだと後悔すると思い、勇気を出して両親に「声優の専門学校に行きたい」と自分の思っていることを伝えました。両親は「自分のお金でやるならいいよ」と言ってくれました。この瞬間、私の人生がようやく始まったような気がしました。今までは自分の気持ちを押し殺して生きてきたので、自分らしい生活を送れていませんでした。そして無事大学へ入学し、専門学校へ行くためにアルバイトでお金を貯

めて、三回生の時によく専門学校へ行くことができました。そこでの日々は本当に充実していて、クラスの中で唯一の皆勤賞を取るほどでした。私は結果として芸能界で輝くことはできませんでしたが、後悔はしていません。むしろ活動して良かったと思っています。

私は開智に通っている生徒の皆さんに伝えたいことがあります。自分の気持ちを押し殺さず素直に伝えてください。例えばそれが勉強に関係ないことであっても、そのことが引っかかって前に進めないことがあります。誰か一人でもいいので話してみたら、救われることもあります。私自身、両親に伝えなければ絶対に後悔していましたし、その後の生活に大きく影響を及ぼしました。開智に通っていただいている以上、成績を上げることは第一ではありますが、人生の先輩として皆さんに自分の経験を少しでも還元できるように頑張りますので、今後とも宜しくお願い致します。

カトリナの ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE Katrina Fujikawa (Talking KIDS)

New Year's Eve In The Philippines and Traditions

フィリピンの大晦日と伝統

Japanese New Year celebrations are quite different from my country, the Philippines. New Year in Japan is largely a quiet, solemn, family affair. It's not always marked by noisy reveling, fireworks or count down parties. There are lots of traditions that Filipinos follows in the belief of ushering in a prosperous New Year. Nothing beats the New Year here in the Philippines. It is the noisiest time of the year, fun fireworks that will really drive your nuts with all the noises and the smoke. We go all out with the noise on New Year's Eve. Filipinos buy fireworks and light it up in front of their houses when the clock strikes

midnight. Pots and pans are clanged, cars are vroomed, horns are tooted and whistles are blown. There is the belief that the noise and the smoke will drive the evil spirit away. Special food is prepared like lechon (roasted pig) noodles for long life, and malagkit (sticky rice) like biko so that good fortune will stick around the whole year. Part of the fun in getting ready for New Year is to come up with twelve (12) round fruits, each signify a month of the year. There is the belief that wearing polka-dots clothes will bring lots of money or prosperity. Pockets are filled with round coins, which are jangled to attract

日本の新年のお祝いは、フィリピンとはかなり異なります。日本のお正月は、静かで穏やか、そして厳粛な行事です。それは決して騒々しく歓声をあげて花火をしたり、またカウントダウンパーティーで盛り上がるようなものではありません。

豊かな新年を迎えるという願いでフィリピン人が従う伝統はたくさんあります。フィリピンのお正月はどこよりも楽しいです。それは一年で最も騒々しい時期で、大きな音と煙で人々の気分を駆り立てる花火はとても楽しいです。私たちは大晦日の騒ぎで全力を尽くします。時計が真夜中になると、フィリピン人は花火を買い、家の前で火を

つけます。人々は鍋やフライパンを打ち鳴らして、車はアクセルをふかしクラクションを鳴らします。そして笛を吹きます。大きな音と煙は悪霊を追い払うと信じられています。

長寿を願ってレチョン(焼き豚)や麺、一年中幸運が続くようにマラックキット(もち米)やピコーという日本のおまんじゅうのような特別な料理が準備されます。新年の準備をするのに楽しいのは、それぞれの月を意味する12個の丸い果物を考えることです。水玉模様の服を着ることでたくさんのお金や繁栄がもたらされると信じられています。お金持ちになるように、ポケットは硬貨



wealth. Filipino children jump as high as they can because they believe this will make them taller. We should also open all doors, windows and lights to invite good lucks in our home. We also spend the last days of the year vigorously cleaning everything, specially the dust. However, on the first day of the year, you are not supposed to do any cleaning. No cleaning on the day itself! I hope someday you could spend the New Year in my country. Enjoy the New Years day with our visions of how the start of the New Year opens opportunities for a bountiful life!!!

でいっぱいにして、音を鳴らします。

フィリピンの子供達は背が高くなると信じているので、できるだけ高くジャンプします。私達はまた幸運が家に入るようにすべてのドア、窓、そしてライトを開けます。私達はまた一年の最後の日は一生涯懸命に、特にほこりを掃除するのに費やします。しかし、一年の最初の日には清掃不要です。当日は清掃不要です。

いつかあなたが私の国で新年を過ごして欲しいと思います。豊かな生活を送るための私達の国の新年の日の言い伝えをお楽しみください!

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

February 2019 Vol. 78
毎月10日発行

【本部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467



高木 秀章(塾長)

大切なのは得点力。 傾向と対策の徹底で偏差値差は逆転できる。

このGROWINGを書いている今は1月末、受験生達は学年末テストが終わり、私立受験に向けて最後の追い込みをかけている最中です。暖冬、暖冬と言われていましたが、受験が近づくにつれどんどん寒くなり、外に出た時、寒さでピンと張り詰めた感じが、まるで受験の緊張感を表しているような、今年もそんな季節がやってきました。

このGROWINGが皆さんの手元に届くころには、私立受験が終わり結果も出ている頃だと思います。今は、緊張がほぐれホッと一息ついていますが、後一ヶ月後に、公立高校入試が待っています。私立入試は中学の先生による学校訪問という安全ネットがある受験です。しかし、公立入試は本番次第。人気校では倍率が1.5倍、約3人に1人が不合格になり、いくら内申があっても本番のできて、シビアに合否が分かります。

そして、勘違いしてはいけないのは、公立入試で頼りになる指標は、偏差値ではなく公立入試問題で点数を取る得点力だということです。

この時期になると「今更慌てても、今までの学力が出るだけ。」とクールに考える人もいるかもしれませんが、もちろん、蓄積された学力は大切です。しかし、入試は当然ながら、本番のテストで得点できた人が合格します。同じ志望校を受験する人達は、偏差値で多少の差はあれ、学力は拮抗しています。ちなみに、進研模擬で偏差値62と65の人の差を素点で換算すると、15点~20点程度。1教科5点にもなりません。満点400点の公立入試で考えると、1教科2, 3点。さらに、公立入試問題は記述や英語のリスニング、時間に対して問題量が多いなどクセが強い…。公立入試問題の傾向と対策を徹底するだけでも、偏差値5程度は十分ひっくり返せます。

これが、公立入試の恐ろしさでもあり、おもしろさです。

この1 月、「必ず志望校に合格する」と気力が充実し対策に励む人と、「私立で特待とれているし…」「もうしんどい…」などと目的意識が薄くなっていく人とで、結果は大きく違います。

この時期の学習は
1 公立入試問題の傾向と対策を徹底的に行うこと



カイチからの お知らせ

- 2月9日(土)は私立高校入試です。皆さんの健闘を祈っています。
- 2月9日(土)・16日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4~新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
- 2月10日(日)は珠算上級検定です。2月9日(土)は直前練習を行います。詳しくは担当の先生より連絡があります。
- 3月11日(月)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月19日(火)です。受験生のみならず、最期の最期まで頑張ろう。
- 3月11日(月)より新年度授業がスタートします。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

「努力は嘘をつかない」 全員で合格を勝ち取ろう!

熊谷 周作 (今津教室)

寒さもだんだん厳しくなってきました。中学3年生達は受験シーズンの到来です。ここを目標に勉強してきたわけですから、是非とも力を発揮してもらいたいと思います。そんな受験直前の今津教室の様子について、今回は書いていこうと思います。



▲今津生、とにかく質問が多い!

毎回、このGROWINGでマンネリのように私は書いてしまうのですが、本当に今津教室の生徒達は診断テストに、模擬テストによく頑張っていると思います。通常授業の宿題直しや、小テスト、また冬期講習課題なども全体としてしっかりやり抜いていると感じています。1月上旬、対馬先生が今津教室に来た時も、今津生の元気の良さや積極的に質問する姿勢に圧倒されていました。

さて、こんな今津教室の中でも、特に受験生達は本番が近づいていることもあり、毎日が真剣勝負です。



▲全員マスクを付け万全のインフル対策

インフルエンザが全国的に大流行をしている今年は、全員がマスクを装着して、授業に参加。この意識の高さは、さすが受験生!! 欠席も少なく、他の学年の生徒達と比べても、欠席率も低く、本当にすばらしい!!

そして、勉強面においては自分には何が足りないかを考えながら、自発的にどんどんと課題を見つけて取り組んでくれています。その課題を消化する過程で、毎日のように塾に来て自習を行い、先生を捕まえるように質問に来ています。中には、質問内容をノートにまとめて、次に活かせるよう工夫している人達もいます。(このような姿勢は、公立入試に向けて是非みんなにシェアしたいところです。)

ただ、みんなで丸となり受験勉強を進める上で、日々近づく入試を意識してしまい、不安になってしまう生徒もいます。そんな生徒に対しては、二者面談や、三者面談を行ない、時には保護者の方の力をお借りするなど、スタッ

フ全員で生徒達のメンタルも意識しながら指導を進めています。



▲生徒の様子は社員・非常勤
みんなで見守っています。

受験勉強を本気で取り組んでいる。だからこそ、不安にもなり、合格したときの喜びも人一倍得られることとなります。私自身も実は生徒達と同じ、「あの子どうだろう?」「ここは復習しているかな?」など、胃が痛くなってしまいますが、大切な進路に関わる仕事ですから、むしろそうあるべきと考えています。

このGrowingを配る頃には、私立高校の結果が返ってきています。

「努力は嘘をつかない」
短い期間ではそうならないこともあるかもしれませんが、人生という長いスパンで見れば、これは紛れもない事実です。

努力は確実にみんなの将来に繋がっています。次は公立入試。絶対全員で合格を勝ち取ろう。



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

カイチ予備校が拡張し 新たなスタートを切ります

熊谷 真宏 (カイチ予備校)

昨年4月に開校した高校生専門校舎であるカイチ予備校も、早いものでもうすぐ1年が経とうとしています。昭和の古き良き雰囲気が残る城東商店街のど真ん中という、とても予備校があるとは思えない場所に立地しており、生徒が果たして来てくれるのかという不安も少なからずありましたが、チラシ、HPの宣伝を全く行っていないにもかかわらず、現在では高1・高2生を合わせて40名の生徒が通ってくれています。そしてそのほとんどが、中学卒業までずっとカイチに通ってくれていた生徒達です。



▲カイチ予備校も創立1周年。
40名の生徒達が通塾しています。

カイチが目指しているのは、「幼児教育から大学受験まで、長期に渡る一貫した教育サポート」であり、「地域になくてはならない教育機関」になることです。カイチ予備校が開校したことにより、この大きな目標をようやく実現することができる段階まで来ました。カイチがここまで成長してこられたのは、生徒の皆さん、そして保護者の方々のご理解とご支援があったからこそです。厚く御礼を申し上げます。



▲カイチ予備校の立地は城東商店街のど真ん中、
昭和感満載です。

さて、この度カイチ予備校では、大学受験を目指す高校生たちにより良い学習環境を提供するため、拡張工事を行うことになりました。現在の敷地面積が約24坪に対し、拡張した際の総面積は約60坪と、およそ3倍の広さにな

ります。これにより、生徒達が今以上に落ち着いて勉強に集中できる環境を提供できるようになります。ここで、今回の拡張によって大きく変わるポイントを3つご紹介します。

① 教室の増設

現在は黒板が設置されている教室が2つ、黒板のない個別指導用の小さい教室が1つという構成ですが、新年度からは高3クラスが新しく増えるため、3学年の授業が同時に行われるという状況にも対応できるよう、新たに黒板付きの教室を増設します。既存の2教室よりも少し広めの面積を確保し、各種説明会などにも有効活用できるようにと考えています。



▲従来の24坪のスペースに...



▲40坪拡大し合計60坪の
本格的な予備校に生まれ変わります。

② 自習用ブースの設置

高校生にとっての一番のニーズは「集中して自習ができる環境」です。「高校生にもなれば自分で家で勉強できるだろう」と思うかもしれませんが、中学生の時と比べてある程度自由な部分が増える高校生だからこそ、様々な誘惑に負けてしまい、家では集中して勉強できないというのが実情です。カイチ予備校では、現在2つある教室の片方を自習室として常に開放しています。ただし席数に限りがあるため、特にテスト前の時期になると席が埋まってしまい、全ての生徒に十分な環境を提供することが難

しい状況です。今回の拡張では、上記の教室増設によって自習の席数を増やすことに加え、新たに自習用ブースを設置します。自習用ブースの最大の利点は、背面と両サイドに仕切りがついているため、自分のプライベート空間を作れることです。これにより、周りの様子を気にすることなく、自分の勉強に存分に集中することができます。こちらの席数は今のところ20席を予定しています。

③ ラウンジスペースの併設

集中して自習できる環境に加えて、私がもう1つ大切だと考えているのが、「リラックスできる環境」です。自習室で長時間勉強に励めば、必ず集中が切れる時間もあるはずですが、そんなときに、スマホを見ながらゆっくりくつろいだり、友達と談笑したり、食事ができるようなスペースがあれば、休憩する時間を作ることができ、勉強にも再び集中して取り組めると考えます。また、特に受験を控える高校3年生ともなると、一度ご飯を食べに家に帰ってまた自習に来て...という時間すら惜しいと感じるはずですが、それならば、1日中ずっと快適に過ごせるような環境があれば、とても有難いことだと思います。実際、私自身も高校生の時に同じように実感していたのを覚えています。ラウンジスペースには、さらに受験に関する情報誌や各大学の資料などの設置も考えておりますので、生徒達への情報発信の場としても有効活用したいと思っています。

このように、現在よりもさらにグレードアップした教室へと生まれ変わる予定のカイチ予備校ですが、もちろん環境の質が向上しただけでは十分ではありません。何よりも重要なのは、そこで教える先生達です。来年度は在籍している今の高校2年生達が最後のセンター試験を受ける年であり、そしてカイチ予備校にとって初めて本格的に受験生を指導する大事な1年になります。合格実績を誇る大手の予備校ではなく、カイチという塾を信頼し、カイチ予備校を選んでくれた生徒達と保護者の方々への期待に応えらるよう、講師全員が持てる力の全てを注いで臨む覚悟ですので、ご支援の程よろしくお願いたします。